

平成21年6月16日

日本学術振興会
プロセスシステム工学第143委員会
委員長 長谷部 伸治

プロセスシステム工学第143委員会
第172回委員会・平成21年度第1回研究会 開催通知
(143委員会ホームページ <http://www.pse143.org/>)

1. 日 時：2009年7月24日(金)13:00～17:00 委員会・研究会
2. 場 所：ハーモニーホール8階会議室（東京都千代田区内神田1-16-9内神田サニービル内）
（交通：JR山手線「神田駅」下車徒歩5分）
<http://www.kuboco.co.jp/solution/rent.html>
3. 委員会：(13:00～13:20)
4. 研究会：(13:20～17:00)

テーマ：バッチ製造における情報連携の現状と課題

13:20-14:20 「プラント計装とセキュリティ」

名古屋工業大学 越島一郎 氏, JPCERT/CC 宮地利雄 氏

<概要>重要インフラに対するセキュリティリスクは、益々増大している。特に、オープン化が進行し始めたSCADAでは、ネットワーク接続が必須となっている。このため、プラントにおけるセキュリティ問題の現状を説明し、検討すべき課題を明らかにする。

14:20-15:05 「樹脂コンパウンド製品を取り巻く課題と解決へのアプローチ」

東京インキ株式会社 菅野峰明 氏, 三菱化学エンジニアリング株式会社 河野浩司 氏

<概要>樹脂コンパウンド製品の開発及び生産における東京インキで抱えている課題を整理するとともに、開発部門と生産部門を融合する技術開発型生産管理システム構築及び長年培ってきた技術の伝承等の取組について紹介する。

15:05-15:20 (休憩)

15:20-16:05 「医薬品製造業における垂直統合の実践と、適用の効果」

東洋ビジネスエンジニアリング(株) 宮澤由美子 氏

<概要>医薬品製造業においてERPパッケージ(SAP社)のERP機能に、MES機能を実装し、生産設備及び物流設備の統合を実現しました。SP95適用におけるプロジェクト活動(標準化がもたらす効果)について紹介する。

16:05-16:50 「設計から運転までの情報の一貫性の確立とその管理の仕組み」

東京農工大学 北島禎二 委員

<概要>装置産業たる化学プラントの生産管理は、生産行為そのものだけではなく、生産設備の設計や保全をも含めたプラントライフサイクル全体を統合的に考慮した上での意思決定の仕組みとして捉えなければならない。生産業務を中心に各階層でPDCAサイクルが回る仕組みを備えたエンジニアリングアクティビティモデル構築の試みについて紹介するとともに、こうした参照モデルの重要性についても議論したい。

16:50-17:00 閉会

<追記>

準備の都合がありますので、出欠をご記入の上、7月17日(金)までにご回答下さい。

日本学術振興会プロセスシステム工学第143委員会
平成21年度 第1回研究会（平成21年7月24日）
出欠連絡用紙

7月17日（金）までに、電子メールまたはFAXにて、ご回答下さい。
恐れ入りますが、欠席の場合も御連絡下さい。

< 宛先 >

京都大学 大学院工学研究科 化学工学専攻

長谷部 伸治 殿 (FAX : 075-383-2657, E-mail : admin@pse143.org)

	出席	欠席
委員会		
研究会		
幹事会（幹事のみ）		

会社・大学名 _____

委員氏名 _____ (代理) _____

なお、出席予定の大学側委員で旅費の支給が今回不要な委員は次の欄に○印をお付け下さい。

今回は旅費の支給が不要

.....
変更事項がございましたらご記入下さい。

郵便番号 _____

勤務先住所 _____

会社（大学名） _____

部署 _____

委員氏名 _____

電話番号（ ） - FAX 番号（ ） - _____

E-mail（公開される方のみ） _____

連絡欄：講師の推薦やコメントがございましたらご自由にお書きください。